

🐶天狗伝説(大丹倉と修験道)

August 19, 2010

南紀熊野の赤倉に、童集の村『羽津子のちゃや』がある。山奥の田舎茶屋であるが、近隣には名所旧跡、険峻な岩や魅力的な沢などが存在していて、何度訪れても飽きさせない場所である。

さて、その近くに『大丹倉』と呼ばれる大岩壁が存在する。この岩場の頂上には林道経由とわずかの徒歩で、簡単に登ることができる。先日、初めてこの頂上に登ったが、林道終点に設けられていた看板に興味を持った。そこには捜していた天狗伝説のことが記されていた。紀伊半島には数多くの天狗伝説が残されているので、羽津子さんに、「天狗伝説の記事を書きます」と約束していたので、捜していた話題が得られて嬉しかった。(以下引用)

『この地方は古代から修験道が盛んであった。(途中省略)熊野の峻険な山地は。修業の場に適し、大丹倉の中腹には行をしたという10畳以上の石畳がある。頂上に、高倉剣大明神が祀られている。(途中省略)また、天狗様と呼ばれ、修験者で鍛冶でもあった近藤兵衛という武士の屋敷跡(天狗鍛冶屋跡)も残っている。』

ところで、日本の天狗は歴史的に、山と切っても切れない関係にある。山に住む妖怪であるとか、修行者を守護する神様であったり、その実態は様々である。大丹倉の場合は、修験道の行者が、生前の行いから、死後に化身して山や里を守っている場合に相当すると考えられる。

天狗様はときには、神聖な山岳という場所に立ち入り自然破壊や動植物を乱獲する人間を懲らしめる役目も担っている。天狗は人の心が生み出したものであるが、これからこころを研究し、赤倉ちゃやの、現代伝説を作り上げてみたい。



大丹倉の岩壁



『羽津子のちゃや』の入口